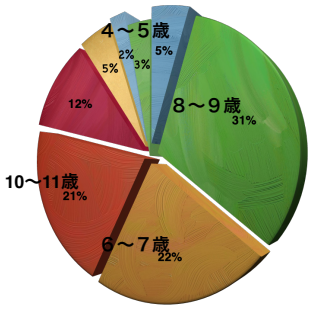
第18回視覚発達支援研究会

パネルディスカッション
視知覚検査のみから視覚情報処理の問題を
評価してよい？

視覚発達支援センター　代表　簗田明教

視覚認知発達検査受診者数
年齢別割合



年齢別　受診者

4～5	8～9
6～7	10～11
12～13	14～15
16～19	成人

視覚認知-Visual Perception

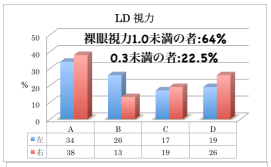
入力
- 視力
- 両眼視機能
- 眼球運動

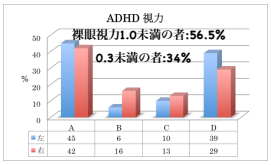
処理
- 識別
- 空間関係
- 視覚閉合力
- 図形の恒常性
- 視覚処理速度
- 視覚記憶

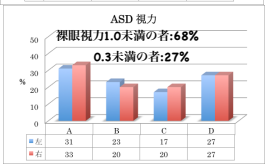
出力
- 目と手の協応
- 協調運動

遠見視力

A:1.0以上、B:0.9～0.7、C:0.6～0.3、D:0.2以下

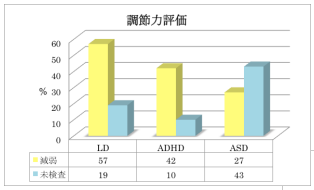


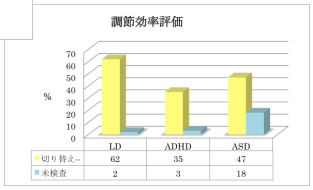




平成22年度学校保健統計検査結果：「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、
幼稚園26.4%、小学校29.9%、
中学校52.7%、高等学校55.6%
「裸眼視力0.3未満の者」の割合は、
幼稚園0.80%、小学校7.6%、
中学校22.3%、高等学校25.9%

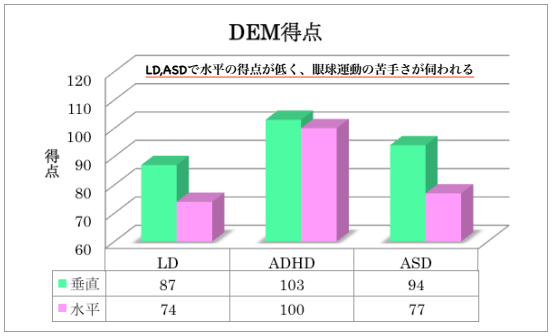
発達障がい児の調節力と効率





調節力、効率とも弱い。
ASDでは検査が出来ない子が多い。

読書時の眼球運動発達検査



主な視知覚技能検査

様々な検査バッテリー

視知覚技能検査について

形の情報を理解する為に必要な視知覚スキルを評価

☆非運動性視知覚技能検査

形の情報の基礎となる
１形
２大きさ
３傾き
同一性を理解する力をみる

☆運動協応視知覚技能検査

眼で見た情報を元に手指操作を通して表現する力
１眼と手の協応
２模写
３視覚探索処理速度
４運動協応処理速度

現状

- 東日本の眼科　５施設　DTVP-3を利用
- 西日本　WAVESを用いて評価している
- 特別支援学級　　WAVESを利用して評価
  検査終了後、学校で実施したWAVESの結果をお持ちになり、受診を希望されるケースが多くなっている。

まとめ

読み書きやその他の学習に問題を持つ生徒に対し、

視覚認知面の精査は大変重要です。

しかし、視覚情報の処理過程を評価する為には、視機能全般の

評価は必要不可欠だと考えます。